

5 - 1 8 東海地方におけるラドン観測 (XIII)

Radon Observation in the Tokai District (XIII)

東京大学理学部

Faculty of Science, The University of Tokyo

前報¹⁾にひきつづき、東海地方における地下水中のラドン濃度の連続観測結果 (1994 年 11 月 ~ 1995 年 11 月) を報告する。

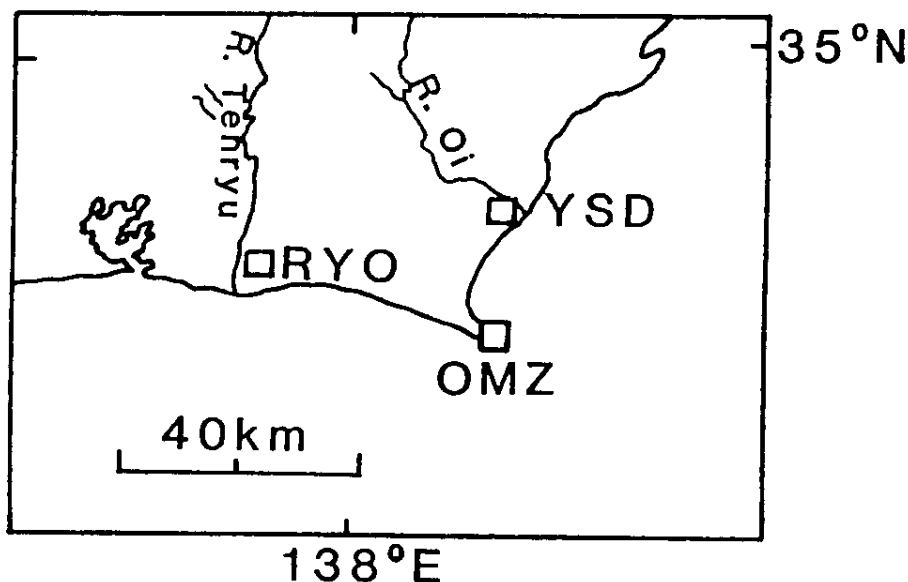
観測点は、第 1 図に示す竜洋 (RYO), 吉田 (YSD), 御前崎 (OMZ) の 3 地点である。第 2 図は各観測点における、1 時間毎のラドン濃度 (積算値) の 24 点移動平均の変動で、縦軸はこの期間の平均値に対する相対値である。

RYO, YSD では 1 週間程度の短周期の変動が卓越しているが、これは人工揚水ならびに YSD 観測点近くで行なわれている建設工事の影響と解釈される。RYO では 1 月 17 日に発生した兵庫県南部地震 (M7.2) に伴ってラドン濃度が低下した。その後ラドン濃度は緩やかに上昇し、7 月頃には地震前の濃度に回復した。

OMZ では大きな年周変化がみられる。これは主に、降雨に対するゆっくりとしたレスポンスであると考えられる。

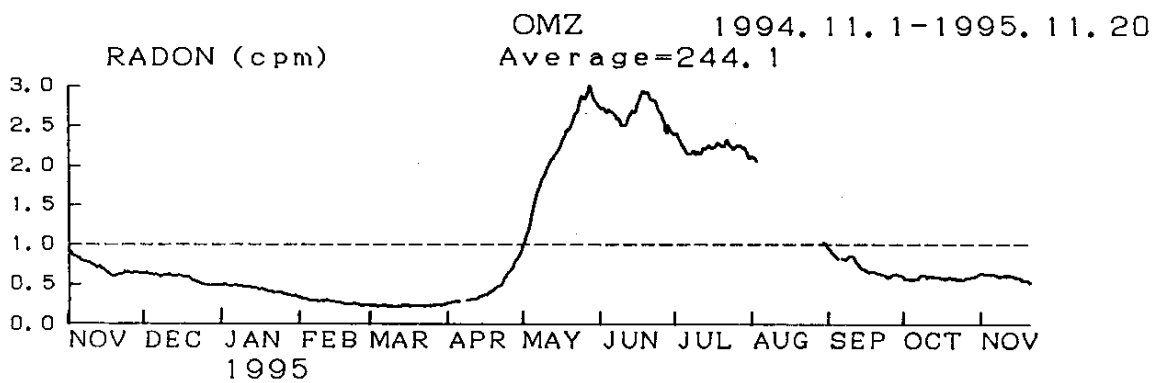
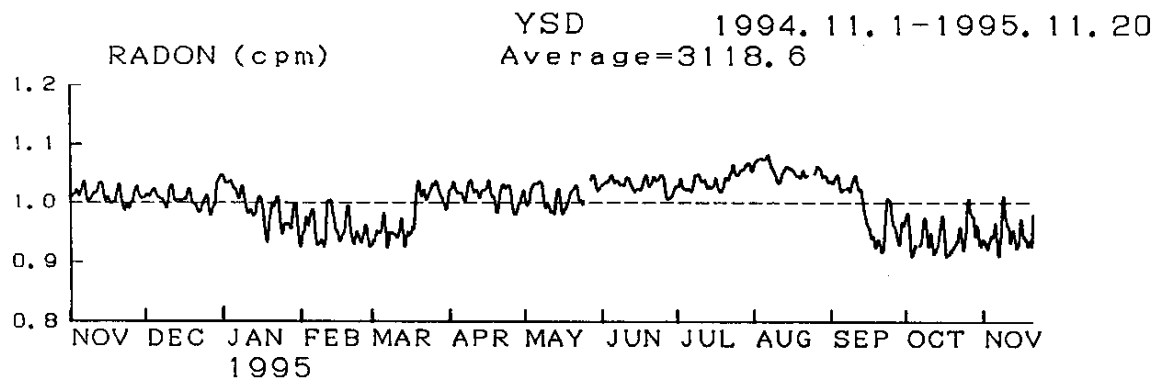
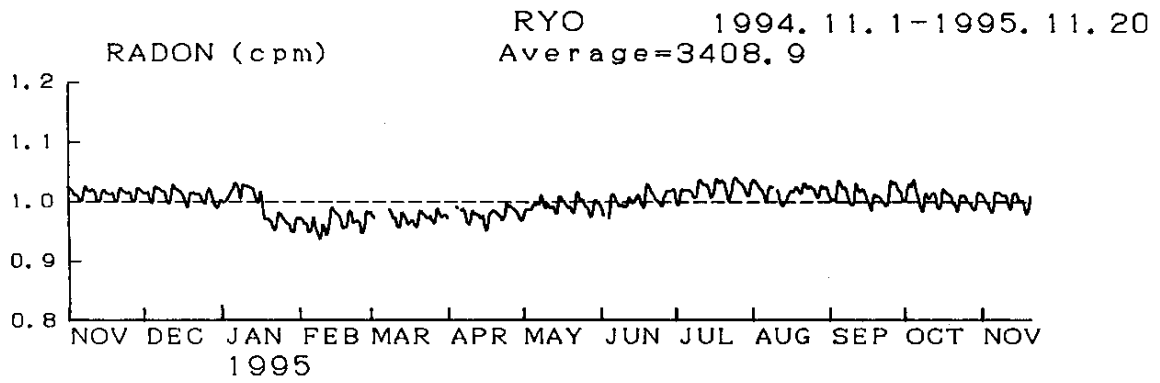
参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部：東海地方におけるラドン観測 (XII), 連絡会報, 53 (1995), 512-513.



第 1 図 東海地方の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Tokai district.



第2図 RYO (竜洋), YSD (吉田), OMZ (御前崎)における地下水中のラドン濃度の変化
(1994年11月~1995年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at RYO (Ryuyo), YSD (Yoshida) and OMZ (Omaezaki). (November 1994-November 1995). The data are 24-hour moving average values.